

令和2年度

糸島市環境基本計画の進捗状況

## 目標別の計画指標一覧

### ■目標1：地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する

#### 1-1：3R・廃棄物の適正処理の推進

	計 画 指 標	所 管 課
1	クリーンセンターへのごみ搬入量	生活環境課
2	市民の1人1日当たりのごみの排出量□	生活環境課
3	ごみの資源化率	生活環境課
4	段ボールコンポスト補助基数□	生活環境課
5	エコショップ登録店□	生活環境課
6	行政区内資源回収拠点設置箇所数□	生活環境課
7	ごみの減量やリサイクルの取組を心掛けている市民の割合(市民満足度調査)□	生活環境課

#### 1-2：低炭素社会実現の推進

	計 画 指 標	所 管 課
1	糸島市内の二酸化炭素排出量□	生活環境課
2	公共施設等の二酸化炭素排出量□	管財契約課
3	地産地消を意識し購入している市民の割合(市民満足度調査)□	農業振興課
4	地産地消販売額(直売所販売額)□	農業振興課
5	「地産地消応援団」店舗数□	農業振興課

#### 1-3：再生可能エネルギー等の導入

	計 画 指 標	所 管 課
1	住宅用太陽光発電買取件数□	生活環境課
2	公共施設へのクリーンエネルギー設備導入施設数□	生活環境課
3	防犯灯のLED導入基数□	危機管理課
4	エコカー公用車の導入台数	管財契約課
5	水素ステーションの誘致箇所数	生活環境課
6	節電や省エネを心がける市民の割合(市民満足度調査)	生活環境課

### ■目標2：糸島に息づく自然環境を保全・再生する

#### 2-1：多様な自然環境の保全

	計 画 指 標	所 管 課
1	荒廃森林整備面積	農林水産課
2	木の駅「伊都山燦」の木材集荷量	農林水産課
3	広葉樹の森の整備面積	農林水産課
4	水源涵養保安林等の指定区域拡大	農林水産課
5	担い手への農地集積率	農業振興課
6	水質調査箇所数	生活環境課
7	河川の平均BOD値	生活環境課
8	市街地や公園など生活環境に満足している市民の割合(市民満足度調査)	施設管理課
9	景観について市民の意識醸成のための研修会などの開催回数	都市計画課

## 2-2:豊かな自然の再生

	計 画 指 標	所 管 課
1	汚水処理人口普及率	下水道課
2	農家戸数	農業振興課
3	認定農業者数(経営体数)	農業振興課
4	ふくおかエコ農産物認証制度認定者数	農業振興課
5	新規就農者数(平成22年度以降)	農業振興課
6	耕作放棄地の再生利用面積	農業振興課
7	広葉樹林化実施箇所数	農林水産課
8	森林の間伐面積	農林水産課
9	松林保全アダプト制度の登録団体数	農林水産課

## 2-3:生物多様性の保全

	計 画 指 標	所 管 課
1	生物多様性地域戦略の策定	生活環境課

## ■目標3:歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる

### 3-1:歴史的風土・文化の保全

	計 画 指 標	所 管 課
1	怡土城跡保存修理工事の実施箇所数	文化課
2	新町支石墓群買上比率	文化課
3	神楽の保存団体数	文化課
4	無形の文化財の指定件数	文化課

### 3-2:環境教育・学習、環境保全活動の充実

	計 画 指 標	所 管 課
1	環境学習プログラム数	生活環境課
2	環境家計簿登録者数	生活環境課
3	環境ボランティア団体向け学習会の開催	生活環境課
4	環境イベントの開催	生活環境課
5	食育に関する農業体験事業数	農業振興課
6	学生のための食農事業数	農業振興課
7	市民1人当たりの公園面積	施設管理課

### 3-3:自然、歴史とのふれあいの推進

	計 画 指 標	所 管 課
1	自然歩道の整備延長	商工観光課

## ■目標4:安全・安心な生活環境をつくる

### 4-1:地域美化の推進

	計 画 指 標	所 管 課
1	春と秋の美化活動への参加者数	生活環境課
2	市の環境パトロールごみ回収量	生活環境課
3	不法投棄防止監視ネットワーク協力団体数	生活環境課
4	犬のしつけ方教室の開催数	生活環境課
5	空き地管理に関する指導件数	生活環境課

#### 4-2:生活環境の保全

	計 画 指 標	所 管 課
1	糸島市は住みやすいと思う市民の割合(市民満足度調査)	生活環境課
2	野焼きの苦情件数	生活環境課
3	水道水の利用に不安を抱えている市民の割合(市民満足度調査)	水道課
4	給水普及率	水道課
5	災害廃棄物の処理・処分計画の作成	生活環境課
6	災害時し尿収集・処理計画の作成	生活環境課

#### ■目標5:協働の仕組みをつくる

##### 5-1:協働の仕組みづくり

	計 画 指 標	所 管 課
1	出前講座等の学習会参加者数	生活環境課
2	「アグリコラボいとしま」主体の産学官連携事業数	農業振興課

##### 5-2:環境情報の共有

	計 画 指 標	所 管 課
1	環境情報サイト新着情報数	生活環境課

##### 5-3:人材の育成と活用

	計 画 指 標	所 管 課
1	環境ボランティアネットワーク加入団体数(加入者数)	生活環境課

## ○糸島市環境基本計画の進捗状況集計表（令和2年度実績）

糸島市は、平成28年度から令和2年度までを計画期間とした糸島市環境基本計画（後期計画）に基づき、市が目指す環境の姿「豊かな自然と歴史・文化がもたらす潤いと活力あるまち いとしま」を実現するため、5つの目標を掲げて、様々な施策等を講じ、目標達成に向けて推進してきました。

令和2年度実績による事業の進捗状況は、次のとおりです。

評価基準	「A」:達成した
	「B」:7割以上達成した
	「C」:5割以上達成した
	「D」:5割まで達成できなかった
	「E」:未着手
	「—」:評価できない

### 【目標ごとの評価集計】

目 標	評 価	計 画 指標数	A	B	C	D	E	—
1. 地球にやさしい生活を実践し 循環型・低炭素社会を実現する		18	6	3	0	6	2	1
2. 糸島に息づく自然環境を保全・ 再生する		19	11	4	2	2	0	0
3. 歴史、文化、自然とふれあえる 快適な社会環境をつくる		12	5	3	0	2	0	2
4. 安全・安心な生活環境をつくる		11	4	1	1	3	0	2
5. 協働の仕組みをつくる		4	1	1	0	1	0	1
合 計		64	27	12	3	14	2	6
		100%	42.2%	18.7%	4.7%	21.9%	3.1%	9.4%

## 糸島市環境基本計画(後期計画)の総括

### 「目標1. 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」

- (1) 5年間で進んだ主な施策
  - ・公共施設へ太陽光発電設備の設置や住宅用太陽光発電設備等の設置に対する補助制度を開始するなど、再生可能エネルギーの普及を図りました。
- (2) 課題と今後の対応
  - ・ごみの減量化に向け、啓発やリサイクル等の推進を図ってきましたが、ごみの搬入量が増加傾向となっており、さらなる減量対策が必要です。
  - ・第2次環境基本計画【目標3 快適で住みやすい生活環境をつくる】に基づき、ごみの減量化に取り組めます。

### 「目標2. 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」

- (1) 5年間で進んだ主な施策
  - ・生物多様性地域戦略を策定することができました。
- (2) 課題と今後の対応
  - ・農林業者の高齢化や後継者不足により荒廃が進んでいる農地・里山への対策が必要です。
  - ・第2次環境基本計画【目標2 豊かな自然を守り育てる】に基づき、農地・里山の保全に取り組めます。

### 「目標3. 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」

- (1) 5年間で進んだ主な施策
  - ・怡土城跡保存修理工事や自然歩道の整備も計画どおりに行いました。
- (2) 課題と今後の対応
  - ・近年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、環境イベント等を中止しましたが、開催方法を検討する必要があります。
  - ・第2次環境基本計画【目標4 協働で環境づくりに取り組む】に基づき、環境イベント等のあり方や環境情報の整備・発信に取り組めます。

### 「目標4. 安全・安心な生活環境をつくる」

- (1) 5年間で進んだ主な施策
  - ・災害廃棄物の処理・処分計画及び災害時し尿収集・処理計画を策定することができました。
- (2) 課題と今後の対応
  - ・山間地域や農地、海岸などで不法投棄が後を絶たず、さらなる不法投棄対策が必要です。
  - ・第2次環境基本計画【目標3 快適で住みやすい生活環境をつくる】に基づき、不法投棄対策の強化に取り組めます。

### 「目標5. 協働の仕組みをつくる」

- (1) 5年間で進んだ主な施策
  - ・環境に関する情報を多く掲載することができました。
- (2) 課題と今後の対応
  - ・出前講座や環境イベント等の開催にあたって、内容の充実を図り、参加者の拡大に取り組む必要があります。
  - ・第2次環境基本計画【目標4 協働で環境づくりに取り組む】に基づき、出前講座や環境イベント等の開催にあたり、内容の充実と参加者の拡大に取り組めます。

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

■施策の方針 1-1 3R・廃棄物の適正処理の推進

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	グリーンセンター へのごみ搬入量	29,954トン□	28,400トン□	基準値より 5%減	33,216トン	33,795トン	●家庭系ごみの搬入量は、人口の増加に伴い増加傾向にある。 ●事業系ごみの搬入量は、R元年度の5,784tからR2年度の4,996tと788t減少。	○対前年度比579トンの増加。 ○例年、校区文化祭や出前講座等でごみ減量の啓発を行っているが、R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかった。	●各種イベントは実施できなかったが、今後も家庭系ごみ減量の推進と事業系ごみの減量のための「事業所紙資源回収事業」を広めていく。 ●ごみ減量化に向けて、出前講座の開催や広報、ホームページなどで啓発を継続して行っていく。	D	生活環境課
2	市民の1人1日 当たりのごみの 排出量	792g□	750g□	基準値より 5%減	865g	872g	●「有価資源回収活動奨励補助金」、「資源集積倉庫等設置補助金」による紙ごみの資源化及び「ごみ減量化器材購入補助金」による生ごみの減量を推進している。	○対前年度比7gの増加。 ○有価資源回収活動奨励補助金 …1,192,437kg 4,769,748円	●紙ごみ、特に「雑がみ」の資源化及び「生ごみ」の水切り・堆肥化を重点に、可燃ごみ減量の普及・推進に努めた。 ●今後も有価資源の回収拠点を市民に知らせごみ減量化を啓発していく。	D	生活環境課
3	ごみの資源化率	26.0%□	30.0%	毎年1%の 増	25.1%	25.0%	●リサイクルセンターにおける不燃ごみの資源化、市民による有価資源回収活動及び牛乳パック・食品トレイ回収等の資源化に取り組んでいる。	○対前年度比0.1%の減。 ○グリーンセンター資源化量 …7,486トン ○資源(集団)回収量 …1,193トン	●今後も、ごみ分別の徹底と資源回収拠点を窓口やホームページ等で市民に知らせていく。 ●携帯電話、インクカートリッジ、小型充電式電池など再資源化できるものについて回収ボックスを設置し、資源化に向けて市民に啓発を行っていく。	D	生活環境課
4	段ボールコンポ スト補助基数	2,863個□	3,837個□	毎年5%の 増	1,625個	1,779個	●校区文化祭や出前講座等の各種イベントにおいて「生ごみの堆肥化」によるごみの減量を推進している。	○対前年度比154個の増。 ○ごみ減量化器材購入補助金 →1,779個、806,400円	●広報、ホームページでPR活動を行った。 ●今後、イベントや講座を通じてコンポスト利用を推進していく。	D	生活環境課
5	エコショップ 登録店	-□	30店□	制度の創設	-	-	●制度の内容等の検討段階で制度の創設には至っていない。	○エコショップについては、他市の状況の調査・研究を行った。	●費用対効果を含む内容、創設について検討を行う。	E	生活環境課
6	行政区内資源 回収拠点設置 箇所数	44箇所□	60箇所□	基準値より 50%増	53箇所	53箇所	●資源回収を推進するためには、倉庫等の拠点設備が有効であることから、「資源集積倉庫等設置補助金」を設け、行政区内への拠点整備を推進している。	○倉庫の整備を検討している行政区長に補助金の説明を行ったが、設置までには至らなかった。	●資源回収団体活動の活性化・活動の継続性確保のための拠点整備に努める。 ●今後も行政区長への周知を行い、事業を推進していく。	B	生活環境課
7	ごみの減量やリ サイクルの取組 を心掛けている 市民の割合 【市民満足度調査】	79.7%□	90.0%□	基準値より 10%増	81.2%	81.1%	●市民まつりや校区文化祭、出前講座で、ごみ減量意識の普及啓発に取り組んでいる。 ●広報やホームページでごみ減量に関する記事を掲載し、啓発を行っている。	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ごみ減量普及の各種イベントが実施できなかった。 ○広報及びホームページにごみ減量に関する啓発記事を掲載した。	●市民まつりや校区文化祭、出前講座等各種イベントにおいて、ごみ減量への意識の高揚を推進していく。 ●広報やホームページでごみ減量に関する記事を掲載し、啓発を行っていく。	B	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

■施策の方針 1-2 低炭素社会実現の推進

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	糸島市内の二酸化炭素排出量	628千トン (H24年度)	552千トン	毎年1.5% の減	546千トン (H29年度)	450千トン (H30年度)	●毎年、省エネ等に関する広報やホームページへの啓発記事の掲載、イベント内での啓発を行っている。また、公共施設への再生可能エネルギー設備の導入による排出量削減に努めている。	○広報やホームページへの掲載。 ○令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントが中止になり、啓発できなかった。 ○東風コミュニティセンター、健康福祉センターあごらに太陽光発電設備を整備した。	●令和3年度より二酸化炭素排出量抑制事業に取り組んでいく。	—	生活環境課
2	公共施設等の二酸化炭素排出量	18,263トン	17,319トン	基準値より 5%減	14,647トン	15,213トン	●二酸化炭素排出量は、基準値と比較して約17%、目標値と比較して約12%減少した。 ●二酸化炭素排出量が前年度実績より約4%増加したのは、対象施設数の増によるものである。	○共通行動計画に基づき、全ての公共施設の冷暖房の温度管理を徹底し、経費の削減と地球温暖化の原因となっている二酸化炭素の排出量の削減に努めた。	●二酸化炭素排出量を基準値より5%削減する目標に対し、H27年度は6%減、H28年度は5%減、H29年度は16%減、H30年度は21%減、H31年度は20%減、R2年度は17%減を達成することができた。	A	管財契約課
3	地産地消を意識し購入している市民の割合 【市民満足度調査】	69.5%	72.0%	基準値より 4%増	73.1%	71.9%	●近年の「食」の安全性に対する意識の高まりや、直売所による地元産農畜産物のPR等により上昇傾向にあったが、H30をピークに減少に転じ、目標値を下回った。	○H31.2に直売所の連携強化を目的に直売所ネットワーク会議を設立。直売所施設の拡充(4件)、イベント(1件)に対して支援した。	●直売所のネットワーク会議で、施設やイベント支援や直売所間の連携強化、研修等を実施し糸島産に対する要望に応じられる体制を目指す。 ●学校給食や地産地消応援団に対する取組みを強化する。	B	農業振興課
4	地産地消販売額 (直売所販売額)	53億円	55億円	基準値より 4%増	62億円	59億円	●糸島産食材に対する人気もあり、直売所での販売額は着実に伸びている。 ●新型コロナの影響で、上昇傾向にあった直売所販売額が令和2年度急落した。	○新型コロナ禍においてイベントが自粛となり、直売所の販売額の増加につながる取組みが実施できなかった。 ○ふるさと納税サイトに直売所ページを制作。直売所の参加を推進し、店舗以外の販路支援や地元農畜産物のPRを実施した。	●直売所ネットワーク会議で施設の機能拡充及びイベントに対する支援の推進と合わせ、直売所間の連携強化、研修等を実施し、販売額の向上だけでなく、直売所の機能強化を図る。	A	農業振興課
5	「地産地消応援団」店舗数	102店舗	120店舗	基準値より 20%増	118店舗	120店舗	●広報紙やホームページでのPR及び、食品産業クラスター協議会の加入店舗などに推進したことにより、伸びていると考えられる。	○広報、HPを活用して地産地消応援団の加入推進を実施した。	●今後も、広報等を通して加入を推進する。	A	農業振興課



糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

■施策の方針 1-3 再生可能エネルギー等の導入

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	住宅用太陽光発電買取件数	2,772件	3,500件	毎年120件の増	198件 (3,742件)	278件 (4,020件)	●平成25年3月に再生可能エネルギー導入計画を策定し、住宅用太陽光発電設備の導入推進を図ってきた。 ●令和3年3月に第2次環境基本計画を策定し、継続して推進を図る。	○住宅用太陽光発電設備及び家庭用燃料電池設備の設置に対する補助制度を開始した。 補助件数:42件	●目標値を達成したが、今後も再生可能エネルギーの普及に努めている。	A	生活環境課
2	公共施設へのクリーンエネルギー設備導入施設数	16施設	21施設	毎年1施設の増	1施設 (21施設)	2施設 (23施設)	●平成25年3月に再生可能エネルギー導入計画を策定し、公共施設への積極的な導入を図ってきた。 ●令和3年3月に第2次環境基本計画を策定し、継続して推進を図っていく。	○健康福祉センターあごら、東風コミュニティセンターに太陽光発電設備を設置した。	●目標値を達成したが、今後も国の補助金等を活用しながら整備を図っていく。	A	生活環境課
3	防犯灯のLED導入基数	743基	5,378基	毎年約880基の増	1,302基 (6,924基)	1,262基 (8,186基)	●実施計画の防犯灯LED改修事業で、ワット数の高い水銀灯、白熱灯を中心に960基程度をLED灯具に改修している。	○実施計画事業、修繕、新設、寄附等により、1,262基の防犯灯についてLED化をおこなった。	●目標値を上回るLED化数となっており、二酸化炭素排出量削減と電力使用量の削減が行えている。	A	危機管理課
4	エコカー公用車の導入台数	3台	5台	基準値より2台増	0台 (3台)	0台 (3台)	●市が保有する公用車のうち、ハイブリットカー2台、電動バイク1台がエコカーとなっている。	○令和2年度の公用車の買い替えは3台中2台を低燃費であるエコカー減税対象車を購入した。	●エコカーの導入については、公用車の買い替え時に計画していたが、ほとんどがエコカー対象車がなかったため、実現できなかった。 今後は電気自動車に必要な、充電設備の整備等を検討していく。	D	管財契約課
5	水素ステーションの誘致箇所数	0箇所	1箇所	1箇所誘致	0箇所	0箇所	●平成28年3月に市近郊となる福岡市西区西都に水素ステーションが整備された。	○水素ステーションの新規整備の動きも少なく、誘致に関する取り組みが進まなかった。	●目標値は達成できなかったが、今後も福岡県の水素関係部署や水素関連企業と情報交換しながら、市内に誘致できるように努める。	E	生活環境課
6	節電や省エネを心がける市民の割合 【市民満足度調査】	80.2%	85.0%	基準値より5%増	79.3%	79.4%	●市民の節電意識は高まってきている。 ●さらなる市民の意識向上に向けて、広報やホームページ等で、啓発記事の掲載やイベント内での啓発を行っている。	○広報やホームページでの掲載。 ○令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントが中止になり、周知活動ができなかった。	●目標値には及ばなかったが、今後も広報やホームページで、節電や省エネ啓発記事の掲載やイベント内での啓発を継続していく。	D	生活環境課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針 2-1 多様な自然環境の保全

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	荒廃森林整備面積	1,060ha	1,560ha	毎年80haの増	60ha (1,792ha)	131ha (1,778ha)	●木材価格の長期低迷により林業経営の採算性が悪化し、森林所有者の林業に対する関心は低下しており、林業の担い手の減少、高齢化により、間伐などの森林整備が遅れているので、福岡県の森林環境税を活用しながら、順次、荒廃した森林の整備を実施し、健全な森林づくりを進めている。	○福岡県の森林環境税を活用した間伐など131.42haの森林整備を実施した。	●森林環境税を活用しながら、水源涵養機能や土砂災害防止等の森林の持つ多面的機能を発揮させるため、荒廃森林の整備を進めたことで達成できた。 ●現在、糸島型森林再生プロジェクトを立ち上げ、森林施業のサイクルの復活のために、森林保全の担い手育成、糸島産材の活用促進について取り組んでいる。 ●平成25年10月には、間伐材等の貯木場「伊都山燦」を開所し、間伐材の利用を促進している。	A	農林水産課
2	木の駅「伊都山燦」の木材集荷量	2,600トン/年	6,000トン/年	毎年560トンの増	5,717トン/年	7,113トン/年	●森林施業のサイクルを回転させるために糸島産材の受け入れ先となる木の駅「伊都山燦」を運営し木材流通体制を構築させる。 ●現在、糸島型森林再生プロジェクトを立ち上げ、森林施業のサイクルの復活のために、糸島産材の活用促進について取り組んでいる。	○公有林(一貴山財産区有林、市有林)や私有林の森林経営計画による森林整備により、間伐材等が森林から搬出され、「伊都山燦」に集荷された。	●「植える→育てる→収穫する(使う)→植える」の健全な森林サイクルを維持することで、森林の持つ公益的機能の発揮と森林資源の循環利用が可能となるので、サイクルの構築に取り組んでいます。伊都山燦での木材集荷量は、森林整備を計画的に進めたことにより達成できた。	A	農林水産課
3	広葉樹の森の整備面積	18,430㎡	22,500㎡	毎年800㎡の増	13,700㎡ (62,380㎡)	7,100㎡ (69,480㎡)	●竹が隣接した森林に侵入・拡大し、荒廃している森林や樹木が枯死している森林など、森林としての公益的機能が低下しており、放置すれば公益的機能が損なわれるおそれがある箇所においては、広葉樹を植栽し、森林の再生を進めている。	○瑞梅寺ダムの水源区内で侵入竹林を伐採して、広葉樹苗の植樹(6,600㎡)を実施した。 ○広域基幹林道沿いでボランティアによる広葉樹苗の植樹(500㎡)を実施した。	●水源涵養機能や土砂災害防止等の森林の持つ公益的機能の向上のために、毎年植樹祭や瑞梅寺ダム上流部の竹転等を行い広葉樹の森の整備を進めることにより達成できた。	A	農林水産課
4	水源涵養保安林等の指定区域拡大	3,539ha	3,590ha	毎年10haの増	0ha (3,550.3ha)	0ha (3,550.3ha)	●森林が持つ水源涵養等の公益的機能を向上していくため、山林所有者の理解と協力を得ながら、保安林の指定区域を広げている状況である。	○山林所有者に保安林制度のしくみ等を説明し保安林の指定区域の拡大に取り組んだ。	●今後も、水源涵養等の公益的機能の高度発揮を維持させるため、継続して保安林等の指定区域を拡大していく計画であったが、指定の要件(一体的に1.00ha以上、指定後の伐採不可)が厳しく区域の指定が進まなかった。	B	農林水産課
5	担い手への農地集積率	51%	56%	基準値より5%増	57.0%	57.0%	●農地集積円滑化事業、規模拡大加算交付金の活用により若干ではあるが利用集積される農地面積が増えた。	○JA糸島などの関係機関と協力しながら、認定農業者などの担い手への集積を進めた。	●農地集積円滑化事業が廃止となり、農地中間管理事業への移行がスムーズに行えるよう、JA糸島などの関係機関と協力しながら、担い手への集積を推進していく。	A	農業振興課
6	水質調査箇所数	99箇所	100箇所	検査箇所数を維持	113箇所	113箇所	●毎年、水環境の保全を図るため、河川、ため池、地下水等の水質検査を実施している。	○河川69箇所、ため池16箇所、地下水28箇所水質検査を実施した。	●生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るため、今後も継続して水質状況の監視を行っていく。	A	生活環境課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
7	河川の平均 BOD値	1.0mg/ℓ	2.0mg/ℓ以下	2.0mg/ℓ以下を維持	0.94mg/ℓ	1.02mg/ℓ	●公共下水道、集落排水の整備や合併処理浄化槽の普及により、徐々に河川の水質は改善している。	○河川調査地点69箇所、環境基準の生活環境項目であるBOD値の検査を実施した。 ○目標値である2.0mg/ℓ以下であった。	●快適な生活環境を確保するため、目標値を維持していくよう、今後も継続して監視していく。	A	生活環境課
8	市街地や公園など生活環境に満足している市民の割合 【市民満足度調査】	17.2%	18.0%	基準値より0.8%増	22.1%	25.0%	●公園のトイレの老朽化など利用者が使いづらい公園がある。また、成長した樹木の倒木など近隣住民が不安に思う公園がある。	○市街地隣接公園高木伐採事業 笹山公園(A・F地区) 前原中央公園 浦志公園 曾根中央公園 武第一公園 ○都市公園施設長寿命化計画策定事業	●公園トイレについては、2箇所の公園を改修した。また、今後は公園施設長寿命化計画を基に、公共施設等総合管理計画第1期アクションプランと整合を図りながら計画的に改修・更新を行っていく。また、成長した公園樹木については、平成30年度から令和3年度まで高木伐採事業を実施し改善を図っていく。	A	施設管理課
9	景観について市民の意識醸成のための研修会などの開催回数	0回	3回	基準値より3回増	2回 (7回)	3回 (10回)	●自然環境や景観に配慮したまちづくりを行うには、多様な自然環境を保全しながら地域に住み続けられる仕組みが必要であり、また、そこに住む人の理解が重要であるため、地区計画制度の検討を行う中で地域住民を対象に説明会等を開催している。	○前原地区地区計画の検討に際し開催した農区説明会、地域・地権者説明会(2回開催)にて景観形成に係る主旨及び規制内容について説明を行った。	●今後も必要に応じて地域に入り、住民の理解を得ながら自然環境や景観に配慮したまちづくりを進めていく。	A	都市計画課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針 2-2 豊かな自然の再生

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	汚水処理人口 普及率	88.1%	93.0%	毎年1%の 増	92.1%	92.3%	●各事業を計画的に整備(工事)することにより、処理人口が増加している。 ①公共下水道事業 ②集落排水事業 ③個別排水処理施設整備事業 ④合併処理浄化槽設置整備事業	○各事業の整備(工事)を行った。 ①公共下水道事業 ②集落排水事業 ③個別排水処理施設整備事業 ④合併処理浄化槽設置整備事業	●今後も、都市基盤の充実、快適な農山村生活の充実、河川やため池などの水環境保全のため、計画的にこれらの事業を推進していく。	B	下水道課
2	農家戸数	2,145戸	2,040戸	基準値の 約5%抑制	2,145戸 (H26年度)	1,787戸 (R2年度)	●大規模農家への支援集中や高齢化などで、農家戸数の減少は進んでいると見込まれる。	○新規農家の確保や農業経営の継続に向け、新規就農支援や担い手への機械導入支援等を実施した。	●引き続き、対象者の幅を広げ、小規模農家でも農業を継続できるよう、販売農家を対象に補助事業を再編し、農家戸数の維持を図る。	D	農業振興課
3	認定農業者数 (経営体数)	368経営体	380経営体	基準値より 4%増	▲1経営体 (372経営体)	▲8経営体 (364経営体)	●後継者不足や高齢化等の理由で、農業経営改善計画の再認定しない農業者が増えている。	○JA糸島や県普及指導センターと連携し、経営状況の把握や指導、また、連絡協議会において各種情報の提供を行った。	●今後も、JA糸島や県普及指導センターと連携した指導等の対応はもちろんで、連絡協議会からの各種情報提供を行い、認定農業者の維持・拡大を図る。 ●糸島市新規就農者ネットワーク協議会と連携し、新規就農者を認定農業者へと育成を図る。	D	農業振興課
4	ふくおかエコ農 産物認証制度認 定者数	28戸	30戸	基準値より 8%増	3戸 (38戸)	3戸 (38戸)	●平成30年度から、環境保全型農業直接支払事業の要件が当該認証制度から国際水準GAPの実施に変更になったため、大幅に減少していたが、若干増加した。	○ふくおかエコ農産物認証制度の認定と共に、国際水準GAPの実施の推進を図った。	●安心・安全な農産物を求める消費者に伝えるため、減農薬減化学肥料栽培による作物づくりが広く普及しつつあり、今後も引き続き、国際水準GAPの実施への移行等を含め推進する。	A	農業振興課
5	新規就農者数 【平成22年度以降】	83人	150人	基準値より 80%増	13人 (144人)	11人 (155人)	●市とJA糸島、県普及指導センターが連携し、毎月、就農希望の相談や情報交換、農業次世代人材投資事業の説明・精査等を行っている。	○現状に記載のとおり、市とJA糸島、県普及指導センターが連携し、情報を共有しながら対応してきた。 ○H31.2月に糸島市新規就農者ネットワーク協議会を設立。農業経営、技術の向上を図り、農業の定着化を進めている。	●現状の連携体制を維持し、就農希望の相談や情報交換、農業次世代人材投資事業の説明・精査等を行う。 ●糸島市新規就農者ネットワーク協議会において、農業経営、技術の向上を図っていく。	A	農業振興課
6	耕作放棄地の 再生利用面積	6ha	48ha	毎年7haの 増	1.7ha (23.2ha)	3.8ha (27ha)	●平成30年度で国・県の補助事業が廃止となり、今年度から市の単独補助により、再生を進めている。 ●農業委員と最適化推進委員と連携し、取組者への推進を行い、耕作放棄地の再生利用を行っている。 ●耕作放棄地の再生は、継続の取り組みにより解消はされているが、農業者の高齢化など、新規に発生している面積も増えている。	○現状に記載のとおり、耕作放棄地の再生事業や既に解消した農地への作付補助(種苗代の補助)を行った。	●現状の連携体制を強化し、耕作放棄地を再生し、農地の有効活用を図る。 ●各地域の耕作放棄地の分布状況を把握し、地域での話し合いを進め、新たな担い手の育成を行う。 ●農地利用最適化の一環として、所有者と耕作者向けのアンケートを実施。アンケート結果を基に令和2・3年度にかけ、農家への訪問を実施し、マッチングを図る。	C	農業振興課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
7	広葉樹林化 実施箇所数	6箇所	16箇所	毎年2箇所 植樹	2箇所 (14箇所)	1箇所 (15箇所)	●脊振雷山山系を走る広域基幹林道沿いを中心にして、広葉樹林化にむけた植樹を市民団体と協働して行っている。	○令和2年度も、ボランティア団体で令和2年10月に広域基幹林道周辺にて、広葉樹の植樹を行った。	●市民協働での森林づくり(植樹祭)に取り組んで、市民に森林に親しみ、森林の大切さを啓発でき、おおむね達成できた。	B	農林水産課
8	森林の間伐面積	917ha	1,770ha	毎年170haの間伐	7.84ha (990ha)	7.61ha (997ha)	●糸島型森林再生プロジェクトにより、国の美しい森林づくり基盤整備交付金や市の林業振興補助金等で補助しながら、間伐などの森林整備を行っている。 ●間伐材等搬出補助金制度を創設し、間伐材等の未利用材の利用促進を行っている。 ●森林組合に対して、間伐材の収集運搬用機械(グラブブル・フォワード)の購入補助を行い、作業効率の軽減や危険防止などを図っている。	○市の林業振興補助金等による間伐により、7.61haの森林整備を進めた。	●間伐作業は、水源涵養機能の保全、土砂災害防止等の多面的機能向上のために取り組みを進めたが、森林環境税を活用した荒廃森林の整備が進んでいることから、補助金を活用する区域が減少したことや市有林の間伐を進めたことにより、民(個人)有林での整備面積は達成なかったが、市全体の間伐、主伐等の取り組みを進めることはできた。なお、令和2年度より国の森林環境譲与税を利用しにより事業を開始した。	C	農林水産課
9	松林保全アダプト制度の登録団体数	9団体	20団体	毎年2団体の増	0団体 (14団体)	1団体 (15団体)	●松枯れの被害が平成22年から増加し、平成24年には甚大な被害となり、松林の保全のため、薬剤の散布や駆除を継続して実施している。 ●松林保全のためアダプト制度による松林の清掃・美化活動を推進し白砂青松の再生に取り組んでいる。	○アダプト登録団体により福井ノ浜と幣ノ浜、野北浜で、6.42haの松林の清掃・美化活動が実施された。	●地域の活動団体や大手企業などにアプローチを行ったが、なかなか登録団体数の増加につながらなかったが、新規に加入した団体により、松林の保全区域が拡大し、松林の持つ公益的機能の回復ができています。	B	農林水産課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針 2-3 生物多様性の保全

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	生物多様性 地域戦略の策定	未策定	策定	新規作成	未策定	策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福岡県では、平成24年に生物多様性地域戦略を策定された。</li> <li>●福岡県下での策定市町村数:6団体(R3.3.31現在)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2次環境基本計画の策定に合わせて、生物多様性地域戦略を策定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後、令和2年度に策定した生物多様性地域戦略を基に取り組んでいく。</li> </ul>	A	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

■施策の方針 3-1 歴史的風土・文化の保全

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	怡土城跡保存修理工事の実施箇所数	2箇所	8箇所 (H29年度)	全ての修理箇所を完成	0箇所	0箇所 (8箇所)	●予定した工事箇所は平成29年度をもってすべて終了している。	○左記の理由により、実施していない。	●状況に応じて実施する。	A	文化課
2	新町支石墓群買上比率	78%	100% (H28年度)	該当地域を全て買い上げ	0%	0% (99%)	●予定した買上げ箇所は99%終了した。	○残り一筆は代替地がなく、買上げが困難である。	●残り一筆の買上げが終了していないが、全体計画に支障はないため、今後の状況に応じて実施する。	B	文化課
3	神楽の保存団体数	2団体	2団体	基準値を維持	2団体	2団体	●高祖神楽保存会と福井神楽保存会の2団体により実施されている。	○後継者の育成のために補助金を交付した。	●今後も継続して後継者の育成を支援する。	A	文化課
4	無形の文化財の指定件数	6件	10件	基準値より4件増	0件 (8件)	0件 (8件)	●県指定及び市指定の8件が無形民俗文化財に指定されている。	○令和2年度も波呂の盆踊りなどを調査案件として挙げていたが、コロナウイルスの影響で、文化財保護委員会が開催できず、指定に必要な資料を得ることができなかった。	●新規指定に向けて継続して調査を行う。	B	文化課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 3-2 環境教育・学習、環境保全活動の充実

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	環境学習 プログラム数	1件	2件	基準値の 2倍	3件	3件	●出前講座のメニューとして、「考えて見よう!ごみ減量のこと」、「はじめよう省エネと創エネ」、「来て、見て、知ってごみのこと」を設け、パンフレット等を活用し、出前講座や施設見学会を行っている。	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出前講座や施設見学会については中止した。	●目標値を達成したが、今後も市民の意識向上のための講座等を開催する。	A	生活環境課
2	環境家計簿 登録者数	385世帯	445世帯	毎年10世帯の増	22世帯 (641世帯)	14世帯 (655世帯)	●毎年、広報やホームページでの周知の他、地球温暖化防止啓発イベントの中で、登録を呼びかけている。	○広報やホームページへの掲載。 ○令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントが中止になり、登録の推進ができなかった。	●目標値を達成できたが、今後も福岡県地球温暖化防止活動推進員及び推進センターと連携を図り、登録者数を増やしていく。	A	生活環境課
3	環境ボランティア 団体向け学習会の開催	0回	1回	新規開催	1回	0回	●団体ごとに活動内容が異なるため、アンケートを取りながら関心のあるテーマで学習会を開催している。	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学習会等は中止した。	●目標値を達成したが、今後も環境ボランティアネットワークの開催時に学習会を開催していく。	-	生活環境課
4	環境イベントの 開催	1回	2回	基準値の 2倍	7回	0回	●糸島市民まつりや地元のイベント等で、環境ブースを設け、リサイクルや環境に関する啓発活動を行っている。	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、環境イベントは中止した。	●今後も、市内で開催されるイベント等で、環境ブースを出展し、ごみの減量・分別・リサイクル、省エネ等の環境に関する啓発活動に取り組んでいく。	-	生活環境課
5	食育に関する 農業体験事業数	28事業	25事業	現状維持	33事業	22事業	●農業公園の指定管理や福吉地域づくり推進協議会の支援などにより、今後の農業体験事業の充実を期待している。	○農業公園での農力祭や収穫祭は新型コロナの影響で中止。収穫体験講座等を実施した。(全13回) ○福吉地域では、まるごとコメ道場を実施した。(トウモロコシ収穫体験は中止) ○子どもを対象とした農業体験イベントとして「キッズファーム事業」を実施した。(全8回)	●今後も、農業公園での体験事業の推進や福吉地域づくり推進協議会の支援などを行いながら、事業の充実を図る。 ●子どもを対象とした農業体験によって農業への理解の他、郷土愛の醸成に努めていく。	D	農業振興課
6	学生のための 食農事業数	2事業	5事業	基準値より 3事業増	4事業	2事業	●学校と連携して、講座や農業体験等を行い、食育及び農業の普及に努めている。	○耕作放棄地再生事業(中村学園大学) ○商品開発事業(中村学園大学) ※糸島まるごと米道場(新型コロナの影響で九州大学は未参加)	●今後も学校と連携して事業を進めたい。	D	農業振興課
7	市民1人当たりの 公園面積	6.59㎡	6.75㎡	基準値より 0.16㎡増	6.71㎡	6.66㎡	●全国、福岡県の平均水準を下回っているため、憩いの場となる公園を増加させる必要がある。	○前年度より公園数及び公園面積はそれぞれ6箇所、1,353㎡増加した。 ○開発による公園の新設についてはバリアフリーに配慮するように開発者へ指導を行った。	●目標値(令和2年度)である6.75㎡を達成できていないが、土地区画整理事業や民間開発に際して市民が利用しやすい公園になるよう指導している。	B	施設管理課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数



糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

■施策の方針 3-3 自然、歴史とのふれあいの推進

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	自然歩道の 整備延長	約41.2km	約42.6km	基準値より 1.43km 延長	約44.4km	約44.4km	●市内11山に登山ルートを設定し、糸島の山歩きマップにて紹介。 約44.4kmの自然歩道を整備。	○既存の自然歩道の管理を行った。	●登山ブームにより利用者が増加しており、既存の自然歩道の整備(管理)だけでなく、新たなルートの設定や整備を引き続き検討していく。	A	商工観光課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標4 安全・安心な生活環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 4-1 地域美化の推進

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	春と秋の美化活動への参加者数	42,641人	46,500人	毎年1.5%の増	46,853人	25,756人	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民の生活環境の向上を図るため、地域の環境美化活動を推進する。</li> <li>●市民へ周知し、各行政区や隣組単位で、地域の清掃活動を実施してもらっている。</li> <li>●行政区だけでなく、個人や団体により、年間を通して市内の清掃活動が行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染拡大防止により春の環境美化は自粛依頼したため、参加者数が少なかった。秋の環境美化は例年どおり実施したところが多かった。</li> <li>○春季参加者数:4,797人</li> <li>○秋季参加者数:20,959人</li> <li>○対前年度比21,097人の減少。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●啓発や行政区内での周知の徹底を図り、市民の環境意識の向上につなげている。今後、行政区だけでなく個人や団体にも活動を広げていくための方策の検討を行う。</li> </ul>	—	生活環境課
2	市の環境パトロールごみ回収量	94トン	80トン	毎年2.8トンの減(H28~)	125トン	123トン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不法投棄の通報による回収だけでなく、地域、団体、個人等による環境美化活動でのポイ捨てゴミや地域の草刈りで出た草等の回収も行っている。また、海岸漂着物の回収も実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○糸島市シルバー人材センターと社会福祉法人香月福祉会MUKAに不法投棄防止監視パトロール業務を委託し、海岸漂着物、不法投棄物、環境美化活動でのゴミなどを回収した。</li> <li>○不法投棄が頻発する行政区等でチラシを作成し、回覧を行った。</li> <li>○また、林道第2雷山浮嶽線の大規模不法投棄を回収した。</li> <li>○主な不法投棄物の回収件数 タイヤ:119本 自転車:8台 テレビ:53台 冷蔵庫:101台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不法投棄が後を絶たず、年々増加傾向にあり、年間を通じた環境パトロールと合わせ、市民や事業者、地域、不法投棄監視ネットワークなどとの協働により、不法投棄監視を行っている。</li> <li>●今後も広報やホームページを活用しながら、不法投棄防止の啓発を行っていく。</li> </ul>	D	生活環境課
3	不法投棄防止監視ネットワーク協力団体数	23団体	30団体	基準値より7団体増	1団体(24団体)	0団体(24団体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●広報やホームページを活用し、協力団体の募集を行っている。</li> <li>●地域の実情に詳しい行政区長にも、不法投棄を発見した時の通報をお願いしている。</li> <li>●依然として不法投棄が多い状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報やホームページで協力事業者の募集を行った。</li> <li>○協力団体事業所に、登録事項の変更の有無・協定内容の確認等を行い、ネットワークの強化を行った。不法投棄監視のネットワーク拡充のため、ボランティア団体や行政区にも不法投棄監視ステッカーを配布するようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協力団体に対する事業内容の再確認を行い、ネットワークの効果的な運用を推進するため、事業者だけでなく、ボランティア団体や行政区にも不法投棄監視ステッカーを配布するようにした。</li> <li>●今後も協力団体の拡大のため、広報・ホームページや商工会、各種団体への訪問などで募集活動を行っていく。</li> </ul>	B	生活環境課
4	犬のしつけ方教室の開催数	年1回	年3回	基準値の3倍	年1回	0回	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛護動物(犬・猫等)に対する苦情・相談が年間を通して後を絶たず、特に近年は猫に対する苦情・相談が増加している。</li> <li>●飼い主の適正な飼養の啓発が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報に飼い主の適正飼養啓発記事を3回掲載。</li> <li>○飼い主のマナーアップキャンペーンを2回実施。</li> <li>○今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、犬のしつけ方教室の開催は中止した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、犬のしつけ方教室の開催は出来なかった。</li> <li>●今後も苦情・相談に関しては、糸島保健福祉事務所と連携しながら対応し、広報、ホームページ、イベントなどを通して定期的に啓発していく。</li> </ul>	—	生活環境課
5	空き地管理に関する指導件数	約409件	約330件	基準値より20%減	278件	291件	<ul style="list-style-type: none"> <li>●近隣住民からの相談が7月から10月頃を中心に多く寄せられている。</li> <li>●市からの指導がなければ雑草の除去を行わないなど、土地管理が受動的な所有者も多い。</li> <li>●複数回指導を行っても対応がない土地所有者も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対前年度比13件増加。</li> <li>○5月に過去に指導した、あき地所有者等133名に対し、雑草除去依頼文書を送付した。</li> <li>○個別の相談に基づき、土地所有者に対して雑草除去等を指導する文書を送付した。</li> <li>○複数回の相談者には無料法律相談を案内した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談があった土地については、所有者等に対し、定期的な雑草除去と併せて自主的な土地の適正管理を促してきた。</li> <li>●今後も相談があった土地については対応していく。</li> </ul>	A	生活環境課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標4 安全・安心な生活環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 4-2 生活環境の保全

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	糸島市は住みやすいと思う市民の割合 【市民満足度調査】	70.2%	77.0%	基準値より6.8%増	79.7%	80.7%	●市内の森林や田園、河川、海岸など豊かな地域資源を守るため、市民・事業者・行政・ボランティアなど、地域全体での環境保全活動を取り組んでいる。	○快適な住環境の向上のため、市民・事業者・行政・ボランティアなどと連携し、自然環境の保全育成や不法投棄防止、地域環境美化活動などの取り組みを行った。	●目標値を達成したが、今後も自然環境の保全には、市民の環境への意識向上が不可欠であり、市民・事業者・行政・ボランティアとの連携や、市民活動への支援を継続していく。	A	生活環境課
2	野焼きの苦情件数	約42件	約30件	基準値より30%減	約35件	約34件	●庭の木や枝、雑草、家庭菜園で出た植物性の廃棄物などの焼却行為は後を絶たない状況である。 ●住宅地域付近の田畑で、焼却禁止の例外とされる農業で行われる廃棄物の焼却行為に関する苦情が多い。 ●農業を営むための焼却行為は、JA糸島や市の関係部署を通じて、周辺地域に配慮しながら焼却するよう、お願いしている。	○広報での野焼き禁止記事の掲載に加え、個別の苦情に対しては、現地での指導を行った。 ○悪質なケース、事業者の廃棄物焼却については警察・福岡県筑紫保健福祉環境事務所等と連携し対応している。	●相談件数が増えた背景には、市民の違法焼却に関する意識が高まっていることが考えられる。 ●今後も、野焼き防止並びに意識向上を図るため、広報・ホームページを通じて、引き続き市民に周知を行っていく。	C	生活環境課
3	水道水の利用に不安を抱えている市民の割合 【市民満足度調査】	8%	5%	基準値より3%減	7.9%	9.3%	●水道管が整備されていない地域において、井戸水の水量不足、水質悪化などの理由で市民が不安を抱えていると考えられる。	○広報いとしま等による「糸島市の上水道の歴史及び取水から配水、資源の保全活動」に至る水道に関するPR活動を実施。	●水道に関するPR等を行い、住民の不安を解消する。	D	水道課
4	給水普及率	79.5%	86.4%	第8次拡張事業の計画値	77.5%	78.1%	●新規水道加入世帯は増加しているが、平均世帯人数が減少しているため、給水普及率が微増となっている。	○広報いとしま等による「糸島市の上水道の歴史及び取水から配水、資源の保全活動」に至る水道に関するPR活動を実施。	●今後も地域からの水道整備要望等ごとに、アンケート調査・説明会等を実施する。	D	水道課
5	災害廃棄物の処理・処分計画の作成	未作成	作成	新規作成	作成済	作成済	●平成30年度に災害廃棄物処理計画書を作成した。	○県で策定された計画を基に計画書の確認を行った。	●平成30年度に災害廃棄物処理計画書を作成し目標は達成できた。	A	生活環境課
6	災害時し尿収集・処理計画の作成	未作成	作成	新規作成	作成済	作成済	●平成30年度に災害廃棄物処理計画書を作成した。	○県で策定された計画を基に計画書の確認を行った。	●平成30年度に災害廃棄物処理計画書を作成し目標は達成できた。	A	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5-1 協働の仕組みづくり

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	出前講座等の 学習会参加者数	2,891人	3,200人	毎年2.5% の増	2,404人	21人	●出前講座や校区文化祭において、ごみ減量やリサイクルの推進を図っている。	○新型コロナウイルス感染拡大防止により、出前講座を1回行った。イベント等については中止した。	●目標値には及ばなかったが、今後も出前講座やイベント等を通し、内容の充実を図り、参加者の拡大に取り組んでいく。	—	生活環境課
2	「アグリコロボいとしま」主体の産学 官連携事業数	8事業	8事業	現状維持	4事業	3事業	●「アグリコロボいとしま」の九州大学内での認知度はまだ低く、農学部に移転に伴って認知度も上がり、ワークショップなど、今後の連携事業は増えてくると期待している。	○アグリコロボ事業としてフォーラム、農場視察バスツアー、ワークショップを実施した。 ※総会時に行う講演会は、書面総会となり未実施 ○すべて、市内の農業者が参画している。	●今後も、九州大学、県(普及センター)、JA、農業者と幅広く連携しながら、農業者に有益な事業を企画する。 ●会員が少ないため、加入を推進する。	D	農業振興課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5-2 環境情報の共有

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	環境情報サイト 新着情報数	9件	12件	毎月1件の 掲載	12件	20件	●環境に関する情報を、より多く掲載するように取り組んでいる。	○環境に関する市の取り組みや啓発、イベント等の情報を掲載した。	●目標値を達成したが、今後も市の取り組みやイベント等の情報を、より多く掲載できるよう継続して取り組んでいく。	A	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5-3 人材の育成と活用

「A」達成した 「B」7割以上達成した 「C」5割以上達成した

「D」5割まで達成できなかった 「E」未着手 「-」評価できない

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	元年度 実績	2年度 実績	現 状	令和2年度取組内容	目標値に対する総合評価(最終年度)	評価	所管課
1	環境ボランティア ネットワーク加入 団体数(加入者 数)	13団体 (366人)	20団体 (560人)	基準値より 7団体増	△1団体 (17団体)  △7人 (451人)	1団体 (18団体)  39人 (490人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●登録団体数:18団体</li> <li>●環境ボランティア活動に関する情報交換会を年1回程度実施している。また、環境ボランティア団体の活動を支援する事業を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、情報交換会は中止したが、書類にて各団体の情報提供を行った。</li> <li>○環境ボランティアネットワーク登録団体の4団体に対し、物品等を支給した。</li> <li>○加入団体を拡充するため、広報・ホームページで募集を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●当初より5団体(124人)増であったが、目標値には及ばなかった。また、着実に環境保全への意識は高まってきているが、散乱ごみ・不法投棄・海岸漂着ゴミは増加傾向である。</li> <li>●今後も、継続して市民と行政が協働で取り組む必要がある。</li> </ul>	B	生活環境課

※令和元年度及び令和2年度の実績欄の( )は、累計数